WPS(女性、平和、安全保障) コロキアム

言葉と記憶から平和をつむぐ
―ウクライナとウズベキスタンから考える Women, Peace and Security―

日 時:11月10日(火) 10:20-11:50
場 所:宇都宮大学 峰キャンパス
5号館B棟 5B12教室

入場無料
事前申込不要
先着100名

戦争は、人々の暮らしだけでなく、言葉や記憶、アイデンティティにも深い影響を及ぼします。本フォーラムでは、ウクライナとウズベキスタンにかかわる二人の語りを通して、戦争の経験や記憶をどのように受けとめ、次の世代へ伝えていくのかを考えます。言葉と物語の力から、平和とWPS(女性・平和・安全保障)について一緒に考えてみませんか。

プログラム(敬称略)

開会挨拶	中村　真	宇都宮大学国際学部長
	高畑　洋平	日本国際フォーラム常務理事
講　演	ジャコブ・ユリヤ	茨城キリスト教大学文学部准教授
	ノディラ・アミノヴァ	絵本作家
ーワークショップ・フロアディスカッションー		
コメント	大野　斉子	宇都宮大学国際学部准教授
閉会挨拶	高橋　若菜	宇都宮大学多文化公共圏センター長



ジャブコ・ユリヤ (Dzyabko Yuliya) さん
茨城キリスト教大学 文学部 現代英語学科 准教授。ウクライナ出身。社会言語学を専門とし、言語とアイデンティティ、ウクライナの言語状況、在日ウクライナ人・避難民の言語使用などを研究しています。戦争のなかで、「何語を話すのか」「自分は何者なのか」という問いはどのように変わっていくのか。ウクライナの経験から、『言葉・アイデンティティ』、そして女性、平和、安全保障について考えます。



ノディラ・アミノヴァ (Nodira Aminova) さん
東京外国語大学 ウズベク語講師。ウズベキスタン・タシケント出身。日本語・日本文学を学び、日本とウズベキスタンをつなぐ文化交流や平和の継承に取り組んでいます。祖父と、第二次世界大戦後にウズベキスタンへ抑留された日本人との実話をもとにした絵本『アミノフと兵隊さん』の制作にも関わっています。
戦争の記憶を、物語や絵本を通して次の世代へどう伝えていくのか。国境や世代を越えて平和をつなぐ「言葉の力」を考えます。

主 催: 宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター(UU3Sプロジェクト)
公益財団法人 日本国際フォーラム、グローバル・フォーラム
協 力: 日本の強みを生かした『女性・平和・安全保障 (WPS)』における貢献の在り方研究会
(外務省外交・安全保障調査研究事業)
問合せ: 宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター(平日10-16時) 宇都宮市峰町350
TEL:028-649-5196・5228